

岡部病院が担う役割について

令和5年8月 医療法人 岡部病院

1 現状と課題

【自施設の現状と課題】

- 自施設の理念〔院是〕
 - ◇やさしさと思いやりの医療
 - ◇信頼される医療
 - ◇地域にねざした医療
- 自施設の診療実績（届出入院基本料、平均在院日数等）
 - ◇地域包括ケア病棟入院料1 52床、平均在院日数 32日
 - ◇療養病棟入院基本料2 67床
 - ◇介護療型医療施設 30床
- 自施設の職員数 : 医師を含む職員確保に常に苦慮している
 - ◇医師7.6名
 - ◇看護職員68.0名、その他専門職67.5名、事務職員その他24.5名
- 自施設の特徴
 - ◇4機能のうち急性期・慢性期が中心 : 高齢者比率が非常に高い
- 自施設の担う政策医療（5疾病・5事業及び在宅医療に関する事項）
 - ◇5疾病：がん 脳卒中 急性心筋梗塞 糖尿病 精神疾患
 - ◇5事業：救急医療(救急告示病院)、災害医療(医療コーディネーター)
へき地医療(御所浦苑) 周産期医療 小児医療
 - ◇在宅医療
- 他機関との連携
 - ◇救急告示病院／病院群輪番制病院
 - ◇新型コロナウイルス感染症患者診療
 - ◇研修等への参加

2 今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

- 自施設の理念〔院是〕 ⇒ 今後も診療の基本方針
 - ◇ やさしさと思いやりの医療 ◇ 信頼される医療 ◇ 地域にねざした医療
- 自施設の診療 ⇒ 高齢者が多く、病床回転率が悪いため、病床の確保必要
 - ◇ 地域包括ケア病棟入院1 52床
 - ◇ 療養病棟入院基本料2 67床 ⇒ 病棟の形態の最適化を図っていく
 - ◇ 介護療型医療施設 30床 ⇒ 介護医療院へ転換
- 自施設の職員数
 - ⇒ 病床数維持の為、医師をはじめ職員確保は今後も重要な課題
- 自施設の特徴
 - ◇ 4機能：急性期・慢性期が中心 ⇒ 急性期・回復期(地域包括ケア)・慢性期を中心
- 自施設の担う政策医療（5疾病・5事業及び在宅医療に関する事項）
 - ◇ 5疾病：がん 脳卒中 急性心筋梗塞 糖尿病 **精神疾患**
 - ◇ 5事業：救急医療(救急告示病院)、災害医療(医療コーディネーター)
へき地医療(御所浦苑) **周産期医療 小児医療** ⇒ 今後も継続していく
 - ◇ 在宅医療 ⇒ 在宅復帰支援強化をはじめ、在宅サービスを充実していく
- 他機関との連携
 - ◇ 救急告示病院／病院群輪番制病院 ⇒ 維持継続
 - ◇ 新型コロナウイルス感染症患者診療 ⇒ 診療・検査医療機関、入院受入医療機関
 - ◇ 熊本メディカルネットワーク等

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【① 4 機能ごとの病床のあり方 その1】

単位：床

病床機能	2022年(令和4年)	2025年(令和7年)	備考
高度急性期			
急性期	52	52	
回復期			
慢性期	97	67	30床介護医療院へ
その他			
合計	149	119	

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【 ① 4 機能ごとの病床のあり方 その2 】

- 2022年(基準日)と2025年(3年後:基準日後)の病床機能
 - (ア) 転換の必要性や背景
 - ・ 介護療養型医療施設廃止による転換。
 - (イ) 転換前の病床機能を転換後にどのように充足させるか

- 2025年の病床機能が異なる理由

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【②診療科の見直し】

	現時点 (令和5年7月時点)	2025年	理由・方策
維持	外・消外・整形・内・ 皮・泌・肛外	外・消外・整形・内・ 皮・泌・肛外	地域での役割として 必要
新設		リハ	在宅復帰支援を強化・ 及び急性期医療を継続 するために必要
廃止			
変更・統合			

3 具体的な計画 (2) 数値目標

	現時点(令和 5年 7月時点)	2025年
①病床稼働率	地域包括ケア病棟 : 80.0% 療養病棟 : 88.6%	地域包括ケア病棟 : 90% 療養病棟 : 97%
②紹介率	4.8%	7.0%
③逆紹介率	—	—

3 具体的な計画

(3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

【取組みと課題】

① 病床稼働率

◇ 外来患者数の維持・確保

⇒ 新型コロナウイルス感染症影響

◇ 健康診断の受診者数増

⇒ 健康診断システムの改善

◇ 他機関との連携強化

② 紹介率

◇ 他機関との連携強化

③ 医療従事者確保

◇ 熊大医局との更なる連携

◇ 勤務環境改善の取り組み